

古紙が生まれ変わるしくみ

製紙メーカー



このような紙製品に生まれ変わります

- | | | |
|-------------|---|-----------------|
| ■ダンボール | ⇒ | ■ダンボール箱・紙筒など |
| ■雑誌 | ⇒ | ■ボール箱・絵本・ノートなど |
| ■新聞 | ⇒ | ■新聞紙・週刊誌・印刷用紙など |
| ■紙パック・コピー用紙 | ⇒ | ■トイレットペーパーなど |

いろいろな紙製品に生まれ変わり、みんなの所にもどってきます。

紙製品



もっとリサイクルのことを知りたいな

回収

みんなの町

お父さんの読む『新聞』や、お母さんと行くスーパーやお店にある『ダンボール』。みんなの読むマンガや雑誌など、町中にある古紙を集めます。

古紙を集めるためトラックや収集車で、みんなの町に走っていくよ。

製紙メーカーでは、古紙からビニールなどの異物を取り除き、機械でドロドロに溶かし、さらに小さなおみなどを取ります。その後、薬品などを使って漂白をして『再生パルプ』という紙の原料に戻して、新しく紙を生産します。



圧縮された古紙たちは、大型トラックを使って製紙メーカーに送ります。



集められた古紙類は、『ダンボール』『新聞』『雑誌』など細かく分けられたあと機械で『圧縮（あっしゅく）』され、トラックで出荷（しゅっか）します。

株式会社 新興エコ

集まった古紙はどうなるのかな？



■投入（とうにゆう）

収集車によって集められた古紙は、フォークリフトを使ってコンベアーのところまで運びます。



■選別（せんべつ）

コンベアーを流れてくる古紙の中から、違う種類の古紙や禁忌品（きんきひん）を手作業で取りのぞきます。



■圧縮（あっしゆく）

選別された古紙は、プレス機を使って圧縮されます。大きなサイコロ状になって機械からでてきます。



出荷

（しゅっか）



古紙の種類

古紙の種類は大きく分けて下の4種類になるよ。どれも同じ『紙』だけどちゃんと分けなきゃダメなんだ！

段ボール



雑誌



新聞



紙パック



禁忌品が混ざっていると、せっかくリサイクルしても質の良い紙ができないんだ...



『混ぜたらダメなもの』を禁忌品といいます。

古紙類の禁忌品（きんきひん）

- F A Xなどの感熱紙
- カーボン紙、ノーカーボン紙（伝票類は要注意）
- 油紙
- 写真
- 紙コップ（ワックス加工のもの）
- ビニールコート紙
- 紙以外の素材が付着しているもの

古紙類以外の禁忌品

（きんきひん）

- ポリ袋
- 発泡スチロール
- 銀紙
- ガムテープ・セロハンテープ
- ゴム、輪ゴム
- ファイルの金具
- プラスチック類
- アルミ箔



集まったペットボトルはどうなるのかな？

この2つのマークが身の回りのものに付いてないか探してみよう。



リサイクルの作業工程



回収
(かいしゅう)



選別
(せんべつ)

色のついたものや、
キャップがついたものを
分けていきます。



破碎
(はさい)

機械を使って、
細かく碎きます。



洗浄
(せんじょう)

きれいに洗って
乾燥させます。



ペットフレーク



ペットボトルをリサイクルに出す前にわたしたちにできること



- ① キャップをはずしきれいにラベルをはがしましょう。
- ② 軽くすすいで飲み残しなどの汚れをとりましょう。



ペットフレークを使って、いろんな商品を作り出すことを『**マテリアルリサイクル**』といいます。



集まった缶類はどうなるのかな？

リサイクルの作業工程



缶の種類には『アルミ缶』と『スチール缶』があり、このようなマークが表示されています。

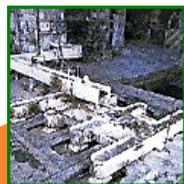


集めた缶類は磁石を使って『アルミ缶』と『スチール缶』に分けます。

スチールは磁石にくっついてアルミは磁石にくっつかないんだね！



選別された缶類は、プレスされてメーカーへ送られます。



プレスされた缶類は高温で溶かされ、再びアルミ・スチール製品として生まれ変わります。

発泡スチロールやトレイもリサイクルできるよ



回収されてきた発泡スチロールやトレイは熔解機によってドロドロに溶かされてから型にはめられます。



この作業でインゴットとして生まれ変わった発泡スチロールは有価物として再資源化されます。



写真（下）のようにかたまりにした状態のコトを『インゴット』といいます。

リサイクルに興味のあるみんなへ

資源の節約や環境汚染の防止のために不用品や廃物を再生して利用することや物をそのまま再使用するのではなく原料のレベルにまで戻して再利用することをリサイクルといいます。

『地域住民』『行政』『事業者』が一体となったときはじめて『リサイクルシステム』が生まれます。

これからも新興グループは、循環型社会を構築するために、安全で適正な処理を行い人と自然が共生する豊かな環境作りを目指します。